

1. 基本精神・学校教育目標

私たちは、『地域の期待に応え、地域から信頼される学園』として、新しい時代に、『志と誇りを持って、いきいきと生きる人間』を育成します。

2. 学校像

礼節を重んずる進学校
 ◇学力を伸長する
 ◇豊かな人間性を育成する

3. 運営理念

輝く 生涯にわたって生きて働く力をつける
 ↑
 極める 探究し 特性を発揮する
 ↑
 徹する 集中し 磨く

□人格の陶冶 □高い志と誇り □自立・自己成長・社会貢献
 □学力の伸長 □豊かな情操と強固な意志 □健やかな身体・運動能力
 □知・徳・体のバランスのとれた教育 □基礎基本の徹底 □自律・礼節

4. 運営目標・評価項目・達成状況

運営目標	短期運営目標	本年度実行計画	評価指標	前年度	本年度		評価	運営目標の達成状況
				実績値	目標値	実績値		
学力の向上	・高い学力の育成 ・学力向上に向けた組織的・計画的な指導	・校内外の研修や教科会議(週1回)、授業研究(年6回以上)等を定期的実施することを通して、課題発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学び(「アクティブラーニング」)を重視した授業を推進するとともに、生徒が能動的に活動する授業を確立する。 ・わからない箇所はその日のうちに理解させることを毎日の目標とする。授業の充実や、単元ごとの補充授業・個別指導を徹底する。	学習指導に関するアンケート	94%	95%	95%	5	社会・数学において2回ずつのべ4回を行った。今年度は特に生徒どうしの対話的活動を中心においた授業提案がされ、様々な工夫が見られた。教科横断的な総合学力を測るものとして進研模試総合学力調査を導入し、成果検証にも役立てていく。中学校独自の授業研修体制を構築していること、対話・発言・発表などの言語活動の評価を授業内でどう行おうかが今後の課題である。
		・授業規律の確立、基礎基本の徹底学習、学習方法の習得などを通じて学力の向上を図るとともに、自学自習の態度を養い、家庭学習の充実させる。	実施状況	92%	93%	92%	5	各学年少人数を生かし、一人一人を丁寧に指導する授業を進めるとともに、数学と英語、理科を中心に習熟度別授業を行った。また、早朝や放課後に個別の補習を組み、伸び悩んでいる生徒の指導にあたった。上位の生徒、下位の生徒とも模試の数値を伸ばすことができた。
			模擬試験偏差値	ベネッセ 51 育伸社 65%	ベネッセ 53 育伸社 66%	ベネッセ 47	4	全国比較での学力では平年並み、全国学力調査では思考力・表現力を問うB分野の問題が全国平均以上。ベネッセの学力推移調査では昨年比で4ポイント減、また、初導入の全国総合学力調査では3学年の教科融合型の到達レベルがLv3は上位4割であった。新テスト導入後の世代であるため、基礎学力と思考・表現力の力をバランスを考えながら指導を行った。しかし、後者の力を伸ばす指導を尾道方式の特色として意識し研鑽していく。
豊かな心の育成	・「7つの習慣」による豊かな人間性の育成 ・社会で力を発揮する役立つ人間力の育成 ・感動ある豊かな体験活動の充実	・特色あるリーダーシップ教育の一環として「7つの習慣」を継続実施し、挨拶、礼節等を基本においた心の育成を推進する。	学校全般に関するアンケート	94%	95%	100%	5	主体性の発揮やチャレンジへの行動力は本校の目指す生徒像のとして定着している。本校の特色教育であるリーダーシップ教育を評価する一つの指針として運用し、全員参加による生徒の自己肯定感の向上を目指す。一方、チャレンジカップにおいては最優秀賞の受賞者を輩出することができ、学年別で道徳・総合的な学習の時間での取り組みであるが形骸化している面もある。指導する教員の指導意義や生徒への教育効果・またその手立てを含め、再度振り返りと工夫が必要である。また、学内発表会(選考会)など、言語活動面での学習活動の場としても活用していく。3年間を通して7つの習慣に触れることができ、生徒の学校全般に関するアンケートでは100%が満足しており目標値を大きく上回ることができた。
		・体験活動を生かした授業を構築し、総合的な学習の時間(探究学習)を充実させる。。また、ネイティブ教員を専任で配置してコミュニケーション能力を養い、国際交流に積極的に参加し、将来世界に羽ばたく生徒を育成する。	行事等に関するアンケート	94%	95%	100%	5	1学年では、前期干潟探究での発表、後期は市内探究、2学年は英語での発表、職場体験、3学年は修学旅行において、生徒・保護者・地域の方々に対してプレゼンテーションを実施、HR活動でもスピーチ活動をおこない、言語活動の機会を増やしている。今後も発展的に継続する。生徒の満足度は100%であった。
		・文化祭、体育祭等、その他伝統文化を通して感動し、心を豊かにさせる体験等を充実させる。 ・朝の読書で年間30冊以上読み、言語活動の充実を図る。	学校行事等に関するアンケート	94%	95%	94%	4	ええじゃんSANSAが、音楽コンクールでの合唱とともに「尾中」もしもスタイルが伝統的になりつつある。それは、全校生徒(合唱の本番以外でも)が参加すること、高学年が主体的に計画し活動しており、自己および仲間へのリーダーシップを成長させ、表現するのに有意義な場であった。全体にも個々の場でもリーダーシップを発揮し、低学年の生徒とともにことを成し遂げようとする姿である。昨年度課題としていた入賞を目指し、新たに練習方法や振付などを刷新することはしなかったが、生徒の満足度・自己肯定感が高まる活動として十分機能していると考え。朝読書では年間40冊以上読み、言語活動の充実を図ることができた。
学校体制の充実	・信頼される学校づくり ・生徒募集の拡大 ・学校組織の機能化及び人材の育成	・「萌芽」学級通信」を継続発行して保護者と連携を図る。「スタディライブ」、「フォーサイト」を積極的に活用して個々の目標にしっかりと取り組むことで、学級目標、中学校目標、学校目標を達成する。	授業参観等参加率	85%	86%	80%	3	参加率は平日と休日開催の差が顕著であり、バランスを考慮していく必要がある。募集活動を兼ねた公開学習発表会を今後も継続していく。卒業生の学校満足度調査では学習・生活・全般ともに満足群が9割(増え回答)であった。各学級通信発行回数、1学年3回、2学年6回、3学年3回発行した。高校と比較し、保護者が生徒の学校生活を見に来校する機会が多く、学級通信発行の効果性については、回数で検証するのは再考の余地がある。個別対応が必要な場面も多く、保護者への連携は丁寧にとれており理解を得ている。学級通信の発行以外にも尾中の特色教育や日頃の成果を発信する機会を検討していく。
		・行事等があった時はHPをすぐに更新し、家庭、地域に本校の内容・存在感を広くアピールする。	実施状況	96%	96%	100%	5	体育祭、文化祭、修学旅行、大山登山へのチャレンジ、合唱コンクールなどの行事に加えて、書道部、かるた部などの活躍もアピールすることができた。学校ホームページでの発信を試みることはできた。「7つの習慣」の授業については、通信で毎時間の内容と生徒の感想を伝えることができた。
		・指導体制や教育内容が充実し、生徒の生き生きとした活動を周知することを通して、教育方針・内容に共感し目的意識を持った新入生を2クラス確保する。	入学者数	31名	41名	28名	3	前年度受験者数比較23%減、入学者数比較10%減 H30年度入学率52%・H31年度入学率61% 受験者数・入学者数ともに減少したが、入学率は9ポイント上昇した。5%毎の入学者増を目指すとともに、男子生徒の入学者確保も今後の課題として取り組む。在校生の学力を入学時から3年間伸ばし続けていることや、具体的な授業の取組みと成果をアピールし、受験者、入学者の増加につなげていきたい。